保育室の床（フローリング）にピーニールテープを貼って線路を作ることを私が始めると、何人かの電車好きな人たちが集まってきて、盛り上がり始めた。私はM男も誘い、共に楽しんだ。この遊び自体は一時的にしか盛り上がらなかったが、やってM男は自分の好きな電車の絵を描いたりブロックで電車や車を作ったりする遊びに加えて、電車好きな仲間と共にホールの大型積み木で電車を作るなど久しぶりネットを広げていっていたのであった。

中学生に学年になると、今度は子ども達からピーニールテープの線路作りが始まった。M男もその一員であった。一学期にはただピーニールテープを貼るのを楽しんでいた遊びが、今回は一人一人がイメージを持ち、線路だけでなく、道路や横断歩道、郵便局など床の上を街のようにつくっていった。私の中にはピーニールテープを床に貼って街をつく、「という発想がなく、自分の発想は線路をつく」というところまで変わっていた、改めて子ども達のイメージの豊かさを感じた。M男は、周りの友だちが他の遊びに行ってしまっても、一日中線路を作り続けれていた。そんなとおりに、M男は今まで以上に自分の好きな遊びに夢中で取り組むようになった。

一つになるのではないかと考え、M男の好きな遊びを通じて友だちとの関わりが持てるようになったのがない、とピーニールテープを使っての線路作りを提案してみることにした。他にも遊びに打ち込むない様子の人たちがおり、気にかかっていたのでは何か変わらきっかけになれば…という思
M男は、線路作りを継続しながら、空き箱を
使って車を作る遊びにも夢中になった。ペットボ
トルの蓋で作ったタイヤを空き箱につけて走らせ
る。この車作りも以前、私がM男に作って示した
ことがあるが、M男はそれを見つけてすぐに作
り始めている。次第にスロープが築かれ、一階と二
階つなげているので、でも走らせるようになった。
スロープは傾斜があるため、スピードが出るが、
真っ直ぐ走らないと途中で止まってしまう。M男
は「どうして真っ直ぐ走らないのだろう……」と言
うと試行錯誤を始めた。私はM男に「自分で気づく体
験をして欲しい」と考えながらも内心では「気づ
けなかったどうしよう、いつも私が関わっている
のすごいのだろう」と悩みながら、しばらく見
守ってみることにした。するとM男はあるとき
言い、自ら気づくことができた。このときのM男
の喜び、感動はとても大きなものであり、それを
共に感じられた私にとっても大きな喜び、感動で
あった。

年長になり、保育室が始まり、空き箱の車作りも継続して楽しんでいた。年長二学期のある日、M男は「前のタイヤが動
けばカーブできるんだよねあ……」と、方向転換
私、M男との約一年半を振り返ってみて、その
ときは気づかなかった、あるいは気づかなかっ
た様々なことがみえてきた。M男は自分の興味から取り組んだ様々な遊びを
通して試行錯誤する体験を積み重ねてきたように
思う。ビーチテープの縄路作りや空き箱の車作り
ときでは、私が提案したときと自ら取り組み始めた
ことをM男の様子は全く違っていた。私が
提案しなければ、M男はこの遊びに出会えなかっ
たかもしれないが、私が提案したときから少しば
間時間をおいて、再度自分で選んだ遊びだからこ
の理由で、M男の思いが深く残されてしまい、試
行錯誤したという体験がより深くできたのか
ないかと思う。そしてこのような体験を積み
重ねてきたことが、今になって確かに、M男の力
になっているのではないかと思う。
M男の友だちとの関わり方の変化も今になって気づくことの一つである。
年中三学期に仲間とビニールテープの線路を作っているときは、友だちの側で友だちの存在を
感じながらも、自分一人の世界が楽しんでいたよ
うに思い、偶然友だちと繋がったり、友だちの
作っている姿をみたりすることを楽しみでいたよ
うである。

次第に周りの人や環境にも向いていく様子がみえ
てくる。

また、自分の好きな遊びにじっくりと取り組む
ことを通じて様々な体験をしてきたことが、お楽
しみ会のような大きな活動の中でも活き活きと動
くM男の姿に繋がっているのではないだろうか。

毎日の保育に追われていると、なかなか長期に
渡って一人一人の育ちや自分の関わり、認識の
しみ合うタイミングにおいて、お互いの気持ちを伝え合いながら、お互いの良いところを真似し
う姿をみられた。そして、三学期には集団での
劇遊びに意欲的に取り組むM男の姿がある。

こうみると、M男の気持ちや周りの環境への興
味、思いなどが、初めは自分の中にいて、
（駒場幼稚園）